

「在宅就労セミナー 2020」開催 ～誰もが当事者の with コロナ時代～

東京都葛飾福祉工場

〒125-0042 東京都葛飾区金町 2-8-20

助成事業の概要

当工場が毎年開催している「在宅就労セミナー」は、在宅就労支援事業の普及活動の一助として定着しつつあり、今後は在宅就労を必要とする人や支援団体とのネットワーク化による横の拡がりを期待したいと考えている。当初予定していた今年度セミナーは、前年度において「在宅就業障害者支援制度」の見直しについて触れたことを受け、一步踏み込んで「在宅就業支援制度の課題・活用」をテーマに今後のこの制度の在り方について研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の点や、このコロナ禍の現状に即したテーマで行いたいとの思いから、テーマを「誰もが当事者の with コロナ時代」とし、研修の形態も集合型から Zoom を利用したフルオンラインによる実施に切り替えた。

実施日：2020 年 11 月 18 日 (水)

13:15 ～ 15:00

セミナータイトル：「在宅就労セミナー 2020
～誰もが当事者の with コロナ時代～」

参加者：在宅就労者、これから在宅就労を希望する人、企業関係者等 計 30 名。

事業の成果

当初 6 月頃実施予定だったが、コロナ禍および緊急事態宣言などの影響により準備期間の確保もままならず、実施も危ぶまれたものの、時期を秋に延期し、形式もオンライン会議ツール「Zoom」を利用したフルオンライン形式に切り

替えた計画で準備を進めてきた。当セミナーは過去にもオンライン参加を一部導入してきたが、奇しくも東京コロニーがこれまで取り組んで来た「IT を活用した重度障害者の職能開発」を活用し、参加者も 30 名を超える結果となった。

セッション等は大きく次の 3 つの内容に分かれている。

なお、このセミナー実施の実務にあたっている東京都葛飾福祉工場が運営する在宅就労グループ es-team「エス・チーム」の結成 20 周年にちなんで、セッション 2 を「記念講演」と位置付け、講師にフリーアナウンサーの町亞聖（まち・あせい）氏をお招きし、オンラインながらも全員参加型の印象深い講演となった。

セッション 1 「スタッフ自己紹介&近況報告」

・今回のセミナー実施の経緯と、準備を進めてきたスタッフ、東京コロニー職員など計 10 名の自己紹介と近況報告を行った。

セッション 2 「記念講演：「個」の声に耳を傾けて～誰もが当事者の with コロナ時代～」

講師：町 亞聖 氏（フリーアナウンサー）

講師の町氏は「多くの方に当事者の声に耳を傾けて欲しい」との思いから長年にわたり、取材等を通じて各地で障害のあるひとや高齢者の実際に触れてきた。自身も十代に、母がくも膜下出血で倒れ、そこから始まった介護の体験等から「コロナ禍の今は誰もが当事者だからこそ、今こそ変わるチャンス、気が付くチャンス」だとのお話をべ

ースに、今回のタイトル【「個」の声に耳を傾けて～誰もが当事者の with コロナ時代～】にいたった。「私たち」が何に困っているのかは、私たちが声を挙げないと分からないのだということ。私たちがこれまで積み上げてきた活動や実績、個々の思いや訴えなど、あらためて発信していくことの重要性を認識した。

セッション3「質疑応答」

今回初めてフルオンラインでの実績の報告や今後の方針などからも在宅就労の拡がりを感じることができ、重度の障害のある在宅就労者のみならず様々な事情から在宅での就労を望む人にとって有用な内容であった。記念講演を受けての感想や意見交換なども多くみられた。

成果の広報・公表

成果報告として当事業所の Web サイトに掲載するほか、そのソースとなった情報等も可能な限り公開する。当事業所の広報媒体などにも掲載し、在宅就労という働き方の現状についてさらに関心が高まっていくよう取り組んでいく。

在宅就労セミナーと銘打った企画を毎年実施してきたが、このセミナーの大きな特徴として、障害のある在宅就労者が自ら企画し、事前告知や当日の進行、収支計算等も行っていることがあげられる。ほかにも、講師との折衝を重ねたり、成果を報告にまとめたりと、在宅就労の実践者として、自らの経験値を伝え、さらなる普及に貢献する機会としての側面も、このセミナー実施の大きな成果であるといえる。

今後の展開

コロナ禍の影響によりさまざまな制限を受け、研修の実施も危ぶまれたが、フルオンライン・リ

モートによる実施が可能となったことで、従来の集合型では参加が難しい人（移動困難や当日の体調、居住地などの理由による）などの新たな顔ぶれもあった。また、この助成事業についても当初より大幅な変更があったにもかかわらず柔軟に活用できたことにより、基本方針である「当事業所の在宅就労における取組や実績の紹介」「他団体の動向も含めた情報共有」「実践的なテーマの設定」が実現できたことも大きな成果のひとつとなった。

テレワークが加速度的に普及した昨今において、障害者の在宅就労も多様化が叫ばれる中、一貫した目標である「『働くカタチは、ひとつじゃない』の実現」に向けて、仕事を通じて得た経験値を広く紹介し、さらには他団体とのネットワーク化などにも結び付けていきたいと考える。